

自己評価			学校関係者評価			
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	価値	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
〔1〕 特色ある学校づくりの推進	＊富岡東としてのオンリーワン教育の実現 ＊自立をめざす視点、共生をめざす視点、個性を重視する視点からの生徒の育成 ＊伝統の継承と新たなアイデンティティの構築	評価指標 ①県下で3校目の県立の併設型中高一貫校として、その使命を果たし独自の校風を築く。 ②生徒一人ひとりを総合的に理解し、その能力と個性を最大限に活かし伸ばす教育を推進する。 ③次代を担うリーダーとしての資質を持ち、仲間と協力し共生できる生徒を育てる。 ④学校生活における、すべての教育活動の充実と深化を図り、伝統を重んじる校風を育てる。	評価指標による達成度 ・〈保護者アンケート〉学校は生徒の学力を伸ばす学習指導ができています 87.4%（昨年度比 2.2 ポイント up） ・〈保護者アンケート〉学校は適切な体験活動ができています 97.8%（昨年度比 2.3 ポイント up） ・〈保護者アンケート〉学校は生徒間の良好な仲間づくりができています 91.9%（昨年度比 4.1 ポイント up） ・〈保護者アンケート〉学校は保護者に学校の方針や教育活動のねらいを適切に伝えていく 86.9%（昨年度比 4.5 ポイント up）	総合評価 B ----- （所見） ・開校9年目を迎え、学習指導、部活動、体験活動、生活指導など、様々な面で「富東中スタイル」が確立した。また、入学志願者数は昨年度に比べやや減少したものの、保護者や地域社会から一定の評価が得られていると受け止めている。 ・開校当初から取り組んでいる朝・夕の「富東タイム」やRRC、また、環境学習・人権学習を中心とした社会貢献プロジェクトやキャリア教育も進展し、富東中の学校づくりが計画に沿って着実に推進できている。 ・国際交流の取り組みが進展しアルフレッド・ディーキンハイスクールとの交流（隔年でのオーストラリア研修）などが、生徒・保護者から高く評価されている。 ・中高教職員の連帯感や、学校としての一体感が高まり、中高それぞれの教育活動に対する理解も一層深まった。	①開校9年目を迎えて、国際人としての資質の高い生徒の育成に努力をしていると思います。さらに、日本人としての「おもてなし」の精神を持って、T・P・Oを重視した「あいさつ」や服装を習慣づけるようにして下さい。昔の方が、より挨拶ができていたように思う。このような校風の更なる進化を願っている。 ②富岡東中学校の校風でもありますが、多感な年齢でグローバルな視野を持てるように、ホームステイや国際交流等により、異国風土を肌で感じる経験を多く取り入れて欲しい。また、大学訪問や職場体験、ESD やリサーチ&レポートなどが計画に沿って着実に推進して欲しい。	<課題> 県下で3校目の併設型の県立中学校として、特色ある学校づくりをさらに推進していく。 <方策> ○中高の交流をさらに充実させ、中高一貫教育校であるメリットを生かした魅力的な教育活動を推進していく。 ○オーストラリアの姉妹校との国際交流をさらに推進し、ホストファミリー等の継続的な交流を学校がサポートし、インターネットなどを利用して、リアルタイムな交流を展開する。 ○子どもたちの将来の夢の創造につながるように、講演会や職場体験など、キャリア教育の取組をさらに推進する。 ○「富東タイム」について、活動の幅を広げるなど、さらに充実した取組となるように努める。 ○中高一貫教育校でなければ果たし得ない余裕のある教育や特色を、それぞれの分掌で提案し、実践する。
		活動計画 ・国際交流の取り組みを計画的に推進し、海外語学研修を充実させる。 ・子どもたちの将来の夢の創造につながるように、キャリア教育の取組を推進する。 ・各種学校行事が充実し、良き伝統が先輩から後輩へ受け継がれるよう、生徒会を中心に活動させる。 ・制服を美しく着る、さわやかな挨拶、奉仕精神など、本校の伝統的美質を伝える指導をする。 ・総合的な学習の時間を中心に、自らの個性を見つめ、自分の進路や人生を切り拓く視点を持たせる。 ・現行の良さを残しつつできるだけ多くの新しい意見も採り入れ、より良い教育環境を目指す。	活動計画による実施状況 ・本校の姉妹校であるオーストラリアのアルフレッド・ディーキンハイスクールとの交流を継承し、オーストラリアから30名の生徒が来校し、本校生徒の家でホームステイを行って交流を深めた。 ・「夢をえがく大学訪問」や職場体験学習、ESD やリサーチ&レポートなどの実施が生徒の将来の夢の創造につながった。 ・富東祭などで生徒会が自主的に活動し、行事を成功に導くとともに、良き伝統が先輩から後輩へ受け継がれた。 ・制服の美しい着こなし、さわやかな挨拶など、富岡東の伝統的な美質が中学生にも定着した。 ・総合学習では、環境問題や人権問題について有意義な学習ができた。またその成果を発信できた。 ・各行事の実施には教職員の意見を反映させ、行事後のアンケート等も実施した。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔2〕 多様なニーズと地域の信頼に応え、地域と共生する学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> * 学校評価制度の活用と学校の活性化 * 教師と生徒、生徒相互そして教師相互の温かい人間関係の構築 * ボランティア活動の推進 * ホームページのさらなる充実 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校評議員会・関係者評価委員会を開催して教育活動の改善を図る。 ② ホームページを月2回以上更新する。 ③ 学年だよりを各学年で年間8回以上発行する。 ④ 阿南市内の小中学校・教育機関との連携を図る。 ⑤ P T A組織を活性化し、各専門部の活動を充実させる。 	<p>評価指標による達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1月末までにホームページを42回更新した。 A ・ 学年だよりを、年間に1年生13回、2年生11回、3年生6回発行した。 B ・ <保護者アンケート>学校は学校の様子を学校・学年だよりやホームページ等で適切に伝えている B ・ <保護者アンケート>学校は保護者と協力して教育活動を行っている。 B ・ <保護者アンケート>学校は保護者と協力して教育活動を行っている。 83.3%（昨年度比3.5ポイントup） 	<p>総合評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>（所見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 阿南市中学校教育研究会の授業研究会に参加するなど、阿南市の各学校や教育機関との連携が深まっている。 ・ 開校9年目を迎えて P T A活動も組織体制が確立するとともに活動が充実し、保護者間の連携、また、地域との連携がより一層深まった。 ・ アンケート調査で、「学校は学校行事や授業参観等、保護者が参加できる機会を適切に設けている」と回答した保護者が95.9%と高い数値を示すなど、保護者からの理解と協力を得ながら教育活動を推進することができた。 ・ アンケート調査で、「学校には子どものことを相談しやすい雰囲気がある」と回答した保護者が78.4%（昨年度比4.0ポイントup）と増加しており、昨年度の課題がやや改善されつつある。 	<p>① 地域に開かれた学校づくりをさらに推進し、防災訓練や清掃活動等で地域住民や保護者との連携をより一層深めて欲しい。学校は地域の宝であり、住民の関心が深い。学校行事で、何度か学校へ伺う度に生徒の皆さんの気持ちのいい挨拶に触れて嬉しく思っています。毎年の公開授業を楽しみにしている。</p> <p>② ホームページの更新が、もっといろいろな面から行われた方がよい。例えば行事予定や学校行事だけでなく、様々な部活動からホームページにアップできるようにしてほしい。</p> <p>⑤ 阿南市の P T A連合会の活動に積極的に参加し、球技大会等に学校のチームで参加するなど保護者との交流を深めて欲しい。また、さらなる P T A役員を募集し、活動を盛り上げていってほしい。それが地域と学校の活性化につながる。アンケート調査結果から、「学校には子どものことを相談しやすい雰囲気がある」と回答する保護者がもっと増えるように改善してもらいたい。</p>	<p><課題></p> <p>地域に開かれた学校づくりをさらに推進し、保護者との連携をより一層深める。</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 入学者募集説明会等の広報活動をいっそう充実させるとともに、広報活動の実施方法を工夫する。また、防災訓練や清掃活動等で地域住民や保護者との連携を深める。さらに E S D やリサーチ&レポートの発表会に、出来るだけ多くの方々に来ていただけるように広報する。 ○ 生徒・保護者とのコミュニケーションを深め、特に長期休業中の個人面談を充実させるなど、相談しやすい雰囲気作りに努める。 ○ より充実した活動ができるよう P T A組織のあり方について検討する。また、公開授業など、地域との連携・交流の取り組みを一層充実させ、積極的な広報に努める。
		<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の教育力を活用するため、学校運営について、有識者から意見を聞き、学校運営に反映する。 ・ 生徒会役員等を中心に地域の様々なボランティア活動等に参加し地域社会との交流を進める。 ・ 阿南市中学校教育研究会等の教職員研修組織に積極的に参加する。 ・ 生徒・保護者とのコミュニケーションを深め、特に長期休業中の三者面談を充実させる。 ・ 阿南市 P T A連合会の活動に積極的に参加する。 ・ 富東祭・公開授業等の公開行事を積極的に開催し、効果的に広報する。 ・ ホームページを定期的に更新し、学校行事や部活動の状況等学校の取り組みを発信する。 ・ 入学者募集説明会の開催や学校案内の配布により、小学生や保護者に対する広報をより効果的に行う。 	<p>活動計画による実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評議員会を開催し、学校評議員や関係者の意見を学校運営に反映させた。 ・ 社会貢献プロジェクトの一環として、富岡東中学校・高校の環境防災委員（防災クラブ）と地元の領家町などの人たちと共同防災訓練を行った。 ・ 各教科等で阿南市中学校教育研究会に参加するとともに、阿南市中学校長会研究協議会等を本校で開催した。 ・ P T A総会時に学年懇談を実施した。また、夏季休業中と冬季休業中に個人懇談（三者面談）を実施した。 ・ 阿南市 P T A連合会の活動に積極的に参加し、球技大会のソフトボール部門で、3年連続優勝を果たした。 ・ 富東祭やオープンスクールを実施し、保護者や地域の方々に本校の教育活動を公開した。 ・ 学校行事や部活動等の学校生活、また、P T A活動や入学希望者への案内等について発信した。 ・ 入学者募集説明会を10月に実施し、約330名の参加があった。また、阿南地域の各小学校を訪問し、本校の教育活動等について広報した。 			

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔3〕 生徒の自主性の基盤向上	* 生徒が意欲的に取り組む授業の創造と、生徒の確かな学力の育成 * 指導内容の精選と指導方法の工夫改善 * 自ら考え行動し解決できる資質や能力の育成	<p>評価指標</p> <p>① 研究授業（大研）を年間2回実施する。 ② 相互授業参観を年間1回以上実施する。 ③ 学習意欲がある生徒90%以上。 ④ 授業に積極的に取り組む生徒90%以上。 ⑤ 平均学習時間1日2時間以上の生徒70%以上。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・ 高校と合同校内研究授業の年間2回の実施に加え、専門機関との連携を図った研究授業も行った。 A ・ 相互授業参観をすべての教科担当が年間2回実施した。 A ・ <生徒アンケート>学習意欲が高まっている生徒81.0% (8.4 ㊦ up) C ・ <生徒アンケート>授業に積極的に取り組んでいる生徒89.7% (3.6 ㊦ up) C ・ <生徒アンケート>家庭で2時間以上学習している生徒62.0% (3.3 ㊦ up) C</p>	<p>総合評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>(所見) ・ 教科の学習指導の学習意欲や積極性について、生徒アンケートの結果が昨年度より向上したが指標には到達しなかった。生徒がさらに自主的に学習に取り組めるよう指導を行う。 ・ 研究授業など教員の指導力向上について、中高全体で取り組んだ。 ・ 「富東タイム」の活動成果として、英語によるコミュニケーション能力も着実に向上しており、本校のめざす教育の特色づくりを進めることができた。 ・ 家庭学習の習慣は、昨年度からの向上が見られたが指標には到達しなかった。今後も生徒の個々に応じたきめ細かな指導に努め、家庭学習の習慣づけを行う。</p>	<p>① 高校と連携して学力の向上を目指し、長期的プランを立て、現在実施している富東タイムやRRCを有効に活用し、その達成度や不十分な点を自発的に改善し更なる向上を目指して欲しい。</p> <p>③④⑤ 中高一貫教育校にはメリットも多くあるが、高校入試がないため、学習意欲を維持することや、授業に積極的に取り組むこと、一定の家庭学習時間を毎日確保することなどが難しくなるというデメリットも当然ある。そのデメリットをどう取り除くか、小さくしていくかが課題である。基礎学力の定着は、これから国際社会人として我が国を担う富東中の最重要課題だと思う。そのためにも本校を選び選ばれ入学してきた生徒の個性や夢や希望に寄り添う先生方に期待するところは大きい。自ら学ぶ習慣が身につけば自然と成長するので、生徒の多様性に期待し、一人一人の長所と個性を受け止め、基礎学力の定着と人間形成をお願いしたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>・ 研究授業・公開授業・外部講師招聘による教員研修、授業評価アンケート等を実施し、指導力の向上を図る。 ・ 学力向上検討委員会において、生徒の学力向上を図る授業の展開や評価のあり方等を検討する。 ・ 「富東タイム」について、さらに充実した取り組みとなるように努める。 ・ RRCの実施や具体的な学習目標の設定により、学習意欲の向上を図り、分からないところは質問する態度を育てる。 ・ 学習内容が定着していない生徒に対しては、テスト前や放課後の個別指導を実施する。 ・ 生活実態調査や学習状況実態調査を効果的に実施する。 ・ 教科担任は計画的・効果的に課題を出し、ホームルーム担任は学習記録表を提出させる等、家庭学習習慣が定着するように努める。</p>	<p>活動計画による実施状況</p> <p>・ 学期ごとの校内研究授業に加え、外部講師を招いた事前研修をもとに「主体的・対話的で深い学びに関する実践研究」を行い、その研究授業も中高の連携を図りつつ全教科で実施した。 ・ 学力向上検討委員会が作成した「学力・学習状況改善プラン」に基づいて学習指導の改善を行った。 ・ 「富東タイム」では短歌・俳句の創作やNHK基礎英語などを実施し、漢字検定や英語検定に多数合格するなど、着実な成果があった。 ・ 生徒アンケートで、RRCを学力向上に役立てている生徒が85.8% (2.2 ㊦ up) となり向上が見られた。 ・ 生徒からの質問に応じたり、勉強の仕方を助言したり、個に応じた指導を実施した。また、基礎・基本を確認する小テストを実施して学力の定着を図った。 ・ 学習状況実態調査を実施し、学習時間やテレビ・ゲーム・スマートフォン等にあてる時間を調査し指導に役立てた。 ・ 学級担任と教科担任が連携して、家庭学習記録表の作成等の指導に取り組み、家庭学習を1日2時間以上している生徒の割合が62.0% (3.3 ㊦ up) となり向上が見られた。</p>		

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔4〕 中高一貫教育の円滑な実施	＊ 中高教員が連携した計画的継続的な指導計画を作成 ＊ 開かれた学校づくりの推進 ＊ 心のふれあう校風の樹立	評価指標 ① 中学生と高校生の交流活動を、年間延べ10日間以上実施する。 ② 中高教員によるTT指導を、週10時間以上実施する。 ③ 中高連携授業研究会を年間3回以上実施する。 ④ 中高の教員が一体となり、中高一貫の教育課程について検討する。	評価指標による達成度 ・ 富東祭・生徒総会など、中高合同の教育活動をのべ14日実施した。 B ・ 全学年で保体を、3年生は英語・数学・保体で、中高教員によるTT指導・習熟度別指導を実施した。 B ・ 相互授業参観を中高合同で実施した。 B ・ 中高一貫教育推進検討会を開催し、中高一貫教育の特色を生かした教科指導のあり方について検討した。 B ・ <生徒アンケート>高校生と学校生活や行事を共にすることは、自分にとってプラスになっていると感じている生徒86.3%(昨年度比0.3ポイントup) B	総合評価 B (所見) ・ 開校9年が経過し、中高一貫校としての形が完成する中で学校行事や部活動など、中高合同の教育活動の実施が定着した。 ・ 教職員の指導体制や研究・研修体制についても中高の共通理解のもと、一体的な運営ができた。 ・ 中高の企画課を中心として、中高一貫の教育課程の編成など、本校独自の中高一貫教育のシステム構築について検討する体制が充実した。 ・ 中学校で一緒に活動してきた生徒が、高校へ進学した際の生徒アンケートで、「高校生と学校生活や行事を共にすることは、自分にとってプラスになっている」と答えた者が多くいる。 ・ 中高の連携をふまえて、中学校独自の教育活動を再検証する。その上で追加・修正すべき点を洗い出し、工夫・改善していく必要がある。	① 中高の生徒同士で同じ階に同学年の生徒がいることが非常に影響力がある中学3年生にとって隣の高校3年生の様子がわかることは非常に参考になるし、勉強にもなる。恵まれた環境を存分に活かしていただきたい。 ④ 富東祭・生徒総会・防災訓練などを中高合同で実施していることは有意義であり、中高一貫教育校しか、なしえないことである。また、高校の教員の授業を受講できることもメリットである。実践している活動を今後も継続し、生徒自らの学力の向上へと繋げていけるような取組を幅広く実践してほしい。	<課題> 中高一貫教育校としての6年間を見通した教育活動や組織体制をさらに充実させる必要がある。 <方策> ○ 教科学習を中心とした中高6年間のカリキュラム等について、企画課を中心に、検討を継続する。 ○ 内進生と外進生の状況を様々な側面から分析し、中学校から高校への接続のあり方について検証する。 ○ 中高教員の連携による効果的なTTや習熟度別等の指導をさらに充実させる。 ○ 他校の実践例を研究し、本校の取組に生かす。 ○ 中高の生徒が合同で取り組む活動を充実させる。
		活動計画 ・ 教科学習を中心とした中高6年間のカリキュラム等について、中高合同の検討委員会等を開催して検討する。 ・ (中・高)の企画課を中心に、中学校から高校への接続について本校の教育目標や生徒の実態に即した「富岡東スタイル」を確立する。 ・ 中高教員の連携による効果的なTTや習熟度別等の指導を充実させる。 ・ 他校の実践例を研究し、本校の取組みに生かす。 ・ 中高の生徒が合同で取り組む活動をさらに充実させる。 ・ 中高相互の授業見学、研究授業及び研究協議を行う。 ・ 中高合同の学力向上検討委員会等において、生徒の学力向上を図る授業の展開を検討する。	活動計画による実施状況 ・ 富東祭(文化祭・体育祭)・生徒総会・防災訓練等の学校行事を中高合同で実施した。 ・ 音楽部・書道部・美術部などの文化部では、中高合同の活動が定着した。運動部では、体力・技能の差に応じて、可能な範囲で活動しており、高校の部活動への移行ができつつある部もある。 ・ 英語・数学・保体で高校の教員と中学校の教員が合同で中学校の授業を実施し、その授業を通して高校の教員が中学生の学習内容や到達度を具体的に把握することができた。 ・ 中学3年生の数学・英語で習熟度別授業を実施し、中高の教員が連携して学習指導に取り組んでいる。 ・ (中・高)企画課を中心に、中高一貫教育推進検討会を開催するなど、中高合同で教育課程や学力向上に関する取組みを検討する体制が充実した。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔5〕 特別活動の充実と「さわやかで活力あふれる富東」の精神の高揚	＊あいさつ、マナー等の基本的生活習慣の定着 ＊食育の推進と心身ともに健全な生徒の育成 ＊たくましく生きる精神力と、心豊かな人間性の育成 ＊安全教育や防災教育の徹底と事故防止への取り組みの強化	評価指標 ①遅刻ゼロの生徒90%以上。 ②あいさつがきちんとできる生徒90%以上 ③部活動の参加率95%以上。 ④市レベル以上の各種大会・コンクール等での入賞が、年間延べ30人以上 ⑤食に対する意識が高まった生徒80%以上 ⑥登下校時の交通事故ゼロ。 ⑦HR担任と教科担任は、始業のチャイムを教室で聞く。	評価指標による達成度 ・〈生徒アンケート〉学校に来ることが楽しい85.4%(昨年度比0.7ポイントdown) B ・〈生徒アンケート〉遅刻ゼロの生徒96.5%(2.4ポイントup) A ・〈生徒アンケート〉あいさつをきちんとしている生徒93.2%(昨年度比3.3ポイントup) A ・部活動参加率95.8%(229人/239人) A ・四国中学総合体育大会男子800mで第2位であった。また、理数研究部が日本学生科学賞で、昨年度に引き続き県知事賞を受賞するなど、多数の受賞・入賞があった。 ・〈生徒アンケート〉朝食をきちんと食べて登校している生徒96.2%(1.6ポイントup) A ・自転車通学生の登校時、自動車との接触が1件、物損事故が1件あった。 B	総合評価 B (所見) ・アンケートで「学校に来ることが楽しい」と回答した生徒の割合が、昨年度と比較してわずかながら低下しており、課題である。遅刻やあいさつに対する意識は上昇している。 ・基本的な生活習慣や規律正しい学校生活に関しては、目標をおおむね達成することができた。校則や言葉遣いなどに関するアンケート結果も昨年度と比較して向上が見られた。 ・生徒同士、あるいは生徒と教師の人間関係も良好で、学校生活への高い満足度につながっていると考えられる。 ・部活動では、良い成果が見られ、運動部・文化部ともに積極的に活動している。	①遅刻ゼロの生徒が昨年度に比べわずかにポイントアップし、96.5%と目標の90%以上を達成できている。社会人としての大切な指導ができていいることがわかる。また、挨拶についても昨年度比微増であり、93.2%と目標を達成できており、「挨拶で心ふれあう富東」のスローガン通り富東の良いところを全面に出ていると思うので、それを続けていきたい。 ⑤学校生活と家庭生活は連動しているため、双方が充実していないと少しずつ生活リズムがおかしくなる。挨拶や服装は基本的な生活習慣であり、重要なことである。また、部活動を通じて先輩や後輩という人間関係の幅が広がる。今後も良質な校風の維持向上を目指し、活動していただきたい。	<課題> 自らの安全と公衆道德に対する生徒の意識を高め、さらに学業に集中できるよう生活習慣を改善する必要がある。また部活動のあり方やその運営方法を見直す。 <方策> ○自転車通学や公共交通機関でのマナーを向上させる取り組みを進めるとともに、通学路の交通立哨などの安全指導を充実させる。 ○高校の部活動との一体的な活動や連携をさらに充実させるとともに中学生の部活動の活動時間や活動場所を確保する。 ○生活記録を活用し、生活習慣を見直させるとともに、個々の生徒の悩みや学級の問題点を発見し、早期の解決を図る。
		活動計画 ・あいさつの励行や清掃活動への主体的取り組みを促す。 ・生活ノートを活用し、個々の生徒の悩みや学級の問題点を発見し、早期の解決を図る。 ・自転車通学のマナーを向上させる取り組みを進めるとともに、通学路の交通立哨などの安全指導を充実させる。 ・ホームルーム活動、全校・学年別集会を通して、服装・頭髪・マナーについての自覚を高める。 ・定期的に生活実態調査を実施する。 ・高校の部活動との一体的な活動や連携を充実させ、活動環境をさらに整備する。 ・食育通信の発行や給食試食会の開催等、保護者と連携した食育を推進する。	活動計画による実施状況 ・富東生らしいさわやかなあいさつが定着した。清掃活動にもしっかり取り組んでいる。 ・始業のチャイムと同時に授業を始める習慣は引き続き定着している。 ・生徒会活動での服装チェックや、定期的実施している昇降口指導により、「制服を美しく着こなす」意識が定着している。 ・定期テストの実施に合わせて生活実態調査を実施し、生活習慣の改善指導に役立てている。 ・給食だよりを毎月発行するなど、保護者と連携して食育を推進できた。ただ、給食への異物混入(毛髪・繊維)が複数回あった。 ・街頭交通指導を定期的実施した。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔6〕 人権と環境に対する高い意識を育てる教育を実践する。	* 生徒一人ひとりの人権尊重の意識を高め、人権感覚を磨くために、教育活動全般をととした人権教育の取り組みを充実させる。 * 校舎内外の環境美化に努めるとともに、環境問題に対する理解を深め実践力を育てる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 B	<p>① 将来の我が国を担う若い人たちが自らの体験や思いをもとに人権について考えることはとても大切で、高校生とともに人権新聞を発行したり、高校生とともに「身元調査お断りワッペン運動」を行ったり、人権意見発表会で自分たちの考えを発表し合うことで、生徒の高い人権意識を育てることができている。</p> <p>人権とは難しいことではなくて、自分自身の中にある優しさに気づき育てることが大切だと思っている。どのような立場であろうとも、人は自分の尊厳が認められ、自分の思いを受け止めてもらえる社会の実現を目指している。教育課程全般での取組が良い結果をもたらすであろう。</p> <p>③ 今年度の中高合同PTA人権問題講演会は四国大学の上岡千世先生の「人間の性と他者理解～エイズカウンセリングから見えてきたもの～」であった。保護者として人権問題を改めて考える機会となった。</p> <p>④ 人権問題や環境問題等はすべて社会問題であり、まずは身近なところから問題点を共有し、それぞれの立場からできることを考え、解決に向けて実践することが大切なのではないか。</p>
		<p>① 人権意見発表会や人権教育講演会等を実施する。</p> <p>② 教職員人権問題研修会を実施する。</p> <p>③ 保護者への人権啓発活動を積極的に実施する。</p> <p>④ 生徒の社会貢献への意識を高める。</p> <p>⑤ 全校的なボランティア活動を実施する。</p> <p>⑥ 環境問題を意識した生活ができている生徒90%以上。</p>	<p>・各学級の代表による人権意見発表会を開催した。 B</p> <p>・教職員人権問題研修会を実施した。 B</p> <p>・PTA活動や学校行事、各種配付物を通じて保護者への啓発を行った。 B</p> <p>・10月の中高合同人権問題研修会を実施した。 B</p> <p>・自分が社会のために何をなすべきかを考えさせた。 B</p> <p>・様々な行事の時に、ボランティアを募集し活動した。 A</p> <p>・ESD（持続可能な社会をめざした教育）を全学年で推進し、持続可能な社会をつくるためにはどうすべきかを考え、ゴミの分別等を徹底した。 A</p>		
		活動計画	活動計画による実施状況	<p>・「社会貢献」の視点を重視した人権・環境教育をいっそう充実させる。</p> <p>・人権・環境について、保護者も参加して共に学ぶ機会を増やす。</p> <p>・学年だよりやホームページ等を通じて、学校での人権・環境教育の学習内容を、保護者に向けて発信する機会を増やす。</p> <p>・市P連の活動等を通して人権・環境教育における地域との連携をいっそう深める。</p> <p>・資源ゴミの分別回収や廃油の回収など、現在の取り組みをいっそう充実させる。</p> <p>・体験的な学習活動を充実させるなど、人権教育の学習方法を工夫改善する。</p> <p>・PTA 人権教育部の活動を工夫する。</p>	

総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔7〕 組織力で迅速かつ有機的に動く教職員集団の構築	<ul style="list-style-type: none"> * 個々の教師に頼ることなく、「報告・連絡・相談」の意識を徹底 * 生徒の状況等について教職員が情報を共有する環境の整備 * 教職員が自主的に研修に参加し、資質の向上のために自己研鑽に励む意識の高揚 * カウンセリングに関する専門的な知識やスキルの会得と、協働する組織の構築 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 服務規律に関する研修会を開く。 ② コンプライアンス、情報セキュリティ等の研修を充実させる。 ③ 不祥事を未然に防止する、風通しのよい職場環境を作る。 	<p>評価指標による達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員アンケートの結果から、教職員の意思疎通は適切に行われていることが確認できた。 B ・ 生徒の状況について教職員の共通理解のもとで教育活動を実施できた。 B ・ コンプライアンスに関するアンケート調査の結果から、コンプライアンス意識が徹底できている状況が確認できた。 B ・ 情報セキュリティに関するセルフチェックの結果から、情報セキュリティについて教職員がよく理解していることが確認できた。 B 	<p>総合評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員間のコミュニケーションは十分に図られており、「報告・連絡・相談」も適切に行われている。 ・ 三者面談や生徒面接等で知り得た情報を教職員が共有し、指導に活かすことができた。 ・ 教職員のコンプライアンス意識は高いことが確認できた。特に自動車を運転する際の交通違反・事故には十分に気をつけるよう努めている。 ・ 情報セキュリティについてはクリアデスクの実行やウイルス対策など、これまでの調査で不十分だった点が改善された。 	<p>① 教員の資質・能力の向上を図り、授業力や指導力をつけていくことが教育の質を高めるとともに、学校全体の教育力向上につながる。</p> <p>生徒たちが最も望むことは、先生方との信頼関係が継続でき、悩み事を相談したり、教科の質問がしやすい環境があることだと思っている。そのような教職員集団の学校ではいじめも不登校も激減すると思っている。どうか不祥事を未然に防止する、風通しの良い職場環境を校長先生を中心に形成して下さい。</p> <p>② 今の社会は目まぐるしい速さで変化している。それについて行くのがやっとならば、時代に合った教育をするのは大変困難なことではあるが、現代の教育は、生徒の心のケアから学力の向上まで多種多様にわたった教育をしなければならず、それぞれの分野や立場で手厚い指導をお願いしたい。しかし、教員自身の心身のケアも忘れないで欲しい。</p>
		<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理職を中心として、教職員間の「報・連・相」をシステムとして徹底するとともに、コミュニケーションのいっそうの充実に努め、風通しの良い職員室・教職員体制づくりを推進する。 ・ コンプライアンスや情報セキュリティ、また、カウンセリング等の研修を充実させ、今日的な問題に適切かつ迅速に、組織として対応できるようにする。 ・ 携帯電話等のネットリテラシーについて、子どもたちがIT社会でより良く生きる力を身につけ、トラブルに巻き込まれることがないように、情報教育体制を整える。 	<p>活動計画による実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員間のコミュニケーションの機会を大切にし、風通しの良い職場環境づくりに努めた。 ・ 生徒の健康状態、家庭状況、人間関係、学習状況などについて、担任だけでなく、学年組織や養護教諭等が共通理解を深め管理職や教育相談との連絡や相談も行いながら助言や支援を行った。 ・ 職員朝会、中学校職員会、学年部会などの機会を捉えて、コンプライアンス意識の徹底を図った。 ・ 情報セキュリティに関するセルフチェックの実施等を生かして、遵守事項の確認と意識の向上を図った。 ・ 警察等と連携し、外部講師を招いて携帯電話の正しい使い方など、ネット社会への適応力を高める取り組みを実施した。 		